

ツヤヒラタコメツキ *Aganohypoganus mirabilis* (Miwa)

【選定理由】

本種の基準産地は岐阜県（岐阜市金華山）である。その後、愛知県から和歌山県に至る雑木林帯に点々と記録されてきたが、どこも偶然に見出されていてまれである。また、本種は日本固有種で1属1種からなっており、学術的にもきわめて重要な存在である。

【形態】

雄の体長は11～13mm内外で、雌は一般に大形で体長16mmに達するのがいる。体は黒色（まれに暗褐色）、表面は無毛状で光沢を有し、頭部と小盾板には灰黄色毛を生じる。触角は短く、前胸背板の側縁は明瞭な縁取りを有し、上翅の側縁は偏平状に外方に進展する。



♂  
瀬戸市定光寺, 1984年5月10日, 蟹江 昇 採集

【分布の概要】

【県内の分布】

県内では岡崎市、豊田市、豊明市、瀬戸市から記録があるのみで、いずれも個体数が少なく、現在では生息地が土地整備などで失われているところもある。

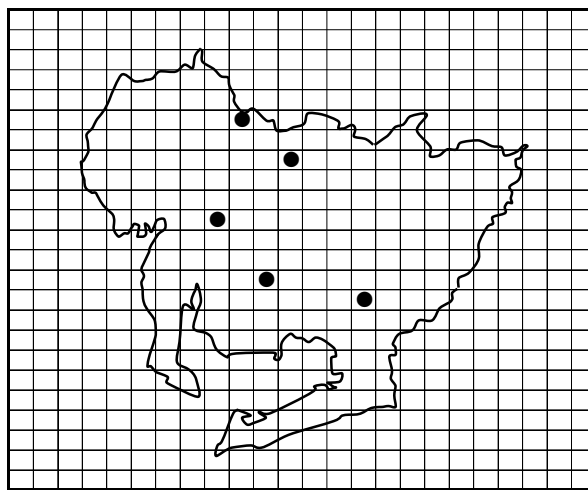
【国内の分布】

原記載以降に、静岡県、愛知県、岐阜県、三重県、和歌山県から記録されている

【生息地の環境／生態的特性】

成虫は3月下旬から5月上旬に見出されている。発生地は山林から都市周辺の雑木林まで一定していないが、岡崎市では市街地近くの雑木林で発生していた。

県内分布図



【現在の生息状況／減少の要因】

本種は主として人里の周辺の雑木林で見出されているが、そこは土地整備などの影響を受け易く、絶滅の危険が大きい。

【保全上の留意点】

本種は雑木林性の種のようなものであるが、個体数が少なく、幼虫の生息場所など生態も不明なため、真の生息環境の把握ができていない。現在ではギフチョウが発生するような里山の雑木林をできるだけ広く保全していくことが必要と思われる。

【引用文献】

大平仁夫・平松広吉, 1998. 和歌山県産コメツキムシ類の記録(8). 南紀生物, 40 (2): 162-164.  
大平仁夫, 1995. 三河地方から採集されるコメツキムシについて(13). 佳香蝶, 47 (184): 57-59.

(2009年版を一部修正)